

## 【著者情報】

アマタ持続可能経済研究所 主任研究員

本多 清（ほんだ・きよし）

フリーランス ジャーナリスト(ペンネーム/多田実)を経て現職

日本文芸家協会会員

専門分野: 環境問題、自然再生事業、農林水産業の持続的展開、  
野生動物の保全等に関するルポルタージュ、紀行、エッセイ

## 【主な実績】

- ・外来生物問題(とくにブラックバス)報道の発端を拓き、外来生物法の施行検討作業に参画
- ・最後の清流・四万十川からの報道で現代日本の構造的問題をレポート
- ・日本の希少動物の動向と社会構造の変化を考察し、共生のあり方を現場から示唆
- ・霞ヶ浦の自然再生事業(市民型公共事業)に当初段階から注目し、地域社会の再構築を  
図りながらの環境再生モデルを紹介
- ・著書『境界線上の動物たち』小学館、『四万十川・歩いて下る』築地書館、  
『環境を破壊する公共事業』緑風出版(共著)
- ・立教大学非常勤講師などを歴任、小学館BE-PAL雑魚党政釣会長を兼務



復活したササニシキの稲穂を掲げて得意顔の著者。